



2021年10月11日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 54号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. ガーナ 21/22 産カカオの生産者価格は昨年同様に維持。輸出価格の 87.15%と発表 (10/2)

政府は、2021/2022年のクロップシーズンにおけるココア1袋(64kg)の生産者出荷価格をGhc660と発表しました。(ガーナの通貨:ガーナセディ。換算レートは5.5~6.0ガーナセディ=1米ドル)この発表は、アクラで行われた記者会見で、食糧・農業大臣で生産者価格検討委員会の委員長であるオウス・アフリエ・アコト氏によって行われました。



*食料・農業大臣アコト氏

オウス・アフリエ・アコト氏は、世界経済へのCovid-19パンデミックの影響などの要因により、カカオの世界市場価格が下落したにもかかわらず、政府はココア農家の生活向上へのコミットメントを示すものとして、生産者価格をFOB価格の87.15%に相当する1トンあたりGhc10,560.00(≒1800米ドル/MT相当)に維持すると発表した。彼によると、政府は、国内のカカオ農家がより多くのカカオを生産し、適正な収入と生活の向上を享受できるよう、カカオ農家の利益を維持することを約束している。

「パンデミックの影響でカカオの消費市場が下落し、他の生産国ではファームゲート価格の引き下げを検討している中、生産者価格は維持されています」と述べました。

コートジボワールとガーナのココア・イニシアティブでは、2020/2021年の収穫期にココア1トンあたり400米ドルの生活所得差(LID)が導入され、ココア農家は他のカカオ生産国の生産者よりも恵まれた環境にあります。

アコト氏は、カカオ生産者年金制度の導入は、ガーナのココア農家が現役を退いた後の生活向上を確保するための政府の取り組みを補完するものであると述べました。さらに、2021/2022年のクroppイヤーに電子計量器を導入することで、農家が労働の利益を十分に享受できるようになると述べました。

「計量器はガーナ規格局(GSA)の認証を受けています。したがって、すべてのLBCがGSAに協力してデポに計量器を設置し、不正行為を防ぐためにココアの計量に使用することを強く求めます」と注意を促しました。

アコト氏は、政府は2021/2022年の収穫年に向けて、生産性向上プログラム(PEPs)を通じ、カカオ生産者への支援を継続することを約束し、ココア・バリュー・チェーンのすべての関係者に、実り多いシーズンになることを願うとともに、2021/2022年のクroppイヤーには、さらなる生産量の増加を期待していると述べた。

2. コートジボワールの新物カカオの生産者価格は昨年対比18%下落でスタート(10/4)

コートジボワールで生産されるココアは、新しい栽培シーズンには1キログラム825CFAフラン(1.48ドル)で販売されると、同国のコーヒー・ココア評議会の事務局長であるイヴ・ブラヒマ・コーネ氏が発表した。この2021年から22年にかけての生産者からの買い取り価格は、前シーズンに販売されていた1キログラム1,000CFAフラン(1.78米ドル)に比べて18%下落しています。

(現在のレート:1米ドル=560CFA前後)

3. コートジボワール、カカオ輸出における地元企業のシェアに上限設定との情報(10/8)

コートジボワールのココア・コーヒー評議会(CCC)は、今シーズン、地元輸出企業の競争力を高めるために、当初政府命令で想定されていた半分の20万トンのココアを今シーズンは地元の輸出業者に割り当てることになる、5人の業界関係者が木曜日にロイターの取材に対して語った。

政府は今年5月、世界最大のカカオ輸出国であるコートジボワールの競争力を高めるために、同国のカカオ輸出数量の約20%を地元企業に任せることを決定した。当初このシェアは、2021/22年シーズンの40万トン以上の豆に相当するはずだったが、ココア・コーヒー評議会(CCC)の規制当局は、地元の輸出業者がその量を生産者から買い付けて輸出するだけの財政的・物流的能力を持っていないため、完全には実施できないと判断したようだ。

「我々は輸出契約の数量を地元の輸出業者に割り当て始めたが、政府が決定した20%を輸出できないことがわかった」と関係者の1人は語った。地元企業3社が匿名を条件に語ったところによると、CCCは地元の輸出業者の取り分は20万トン(全体の10%程度)を上限とすると伝えてきたという。

この法令は、国際的な大手企業がその大きな資金力を利用して、コートジ国内で入手可能なカカオをすべて購入して輸出する一方で、地元企業は融資を受けられず、国際的な大手グループと一切競争することができないという現状を変えることを目的としている。

しかし、一方で、銀行セクターは国際契約が保証されていても、地元の輸出業者への融資にはまだ慎重であると、CCC関係者と2つの銀行関係者は言う。銀行にとっての主なリスクは、生産地域で必要なカカオ豆の量を確保しなければならない多くの地元輸出業者のサプライチェーン上の弱さにあります。「これらの輸出業者は、我々にとってあまりにも大きなリスクを抱えています。彼らには融資に値する担保がなく、お金を出し

てもカカオを必ず買えるか、または買ってくれるかどうかわからないのです」と、ココア部門に融資している大手銀行のクレジットマネージャーは言います。

また、別の銀行員によると、今シーズンのカカオ生産量の減少が予想されることから、現地での豆の奪い合いが激しくなり、小規模な輸出業者が不利になるのではないかと懸念されているという。

「このような状況下では、小規模な輸出業者は我々にとってリスクである」と関係者は言います。。

その結果、CCCは当初は20%を目標としていた地元の輸出業者への割り当て分を再配分する可能性があると言います。「地元の輸出業者が債務不履行に陥るリスクは冒せないので、融資を受けていない業者の契約を解除し、融資を受けている業者に輸出割り当てを譲る可能性を検討している」と関係者は語った。

4. ウガンダのカカオ生産量、ブンギブギョ地区の農場に害虫が侵入して減少 (10/6)。

71歳のSimonさんは、過去17年間にわたってカカオを栽培し、西ウガンダのBundibugyo（ブンギブギョ）地区にある1.5エーカーの農場から月平均449米ドル相当の収入を得てきました。

しかし今年、彼の運命は一変しました。主要な収入源であるカカオに、カカオポッドボラー（cocoa pod borer）が侵入し、彼の収入は月間28ドルにも満たなくなりました。

カカオはウガンダでは年間を通じて収穫され、収穫の時期は月に2回収穫されますが、ハイシーズンは9月から2月、3月から8月で、通常ウガンダの生産者は1月から12月まで安定した収入を得ることができます。実際、ウガンダのカカオ豆生産量の最大の割合（70%以上）を占めるブンディブギョ地区では、カカオ豆の魅力が高いため、他の食用作物や換金作物を放棄し、カカオを優先して育てています。

その後、Simonさんをはじめとするカカオ生産者は、1キログラムのカカオ豆を平均5,000ウガンダシーリング（≒1.40米ドル）で地元の仲買人に売っていたが、収穫量が減り、カカオ豆が不足するようになったため、今では8,200ウガンダシーリング（≒2.30米ドル）にまで高騰している。

カカオの調達と輸出を行っているOlam Uganda Ltd.の経理担当者Sylvia Busingye氏によると、同社はこのブンギブギョ地区だけで年間平均1万トンのカカオ豆を購入しているという。

5. ナイジェリアのオヨ州とエド州で2021-22年の新物カカオの収穫が悪いと報告 (10/7)

ナイジェリアのオヨ州とエド州において、2021-22年シーズンのメインクロップの新物カカオの収穫が、過度の降雨と病気の発生により不作であるとバイヤーが木曜日に発表した。

オヨ州の州都イバダンのカカオ農家アデクンレ氏によると、特に8月と9月の降雨によりカカオ農園ではブラックポッド病が発生し、農家の一部はこの病害に対処するための十分な殺菌剤を購入する余裕がなかったという。アデクンレ氏によると、現地通貨ナイラの対米ドルレートの下落により、輸入殺菌剤のコストが前年比で約40%上昇したとのことで、価格はまだ上昇しており、購入のハードルが上がっているという。

「今、私が収穫したカカオ豆は、今のところ60kg袋が3つで、昨シーズンの同時期に収穫した60kg袋5つよりも少なくなっています」とアデクンレ氏は言います。

また、エド州では雨が多すぎて病気が発生しているため、カカオの生産が落ち込んでいると、トレーダーのヴィンセント・オウジャクポル氏は言います。

「農家は、南西部で乾季が本格的に始まるオヨ州で、11月にはメインクロップのカカオ生産が改善されることを期待している」と、イバダン協同組合生産物販売組合のマネージャー、アキン・オモタヨ氏は語った。

ナイジェリアのメインクロップの収穫は通常、南西部と中西部地域で9月または10月から1月または2月まで行われる。また、雨季は5月に始まり、通常10月に終わり、乾季は11月に始まり、カカオ農家が豆を適切に乾燥させるのに十分な日照時間が得られる4月まで続く。

6. ファンド勢のNYカカオ先物は純買い越しポジションが大きく増加 - 6か月で最大(9/25)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純買い越しポジションを21,409ロット増やし、30,897ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、10月5日)の取引が含まれている。

- 純買い数量の30,897ロットは過去6か月で一番多い数字。
- 総買い数量は先週より12,609ロット増加し、58,724ロットで、総買い数量だけで見ると、過去1年で一番多い数字。
- 総売り数量は8,800ロット減少し、27,827ロットとなり、総売り数量の数字だけで見ると過去18週で一番少ない数字

7. NY市場の全プレイヤーのポジション一覧の分析 (10/5)

COCOA - ICE FUTURES U.S. (CONTRACTS OF 10 METRIC TONS)
 CFTC Code: #073732
 Open Interest: 251,776 Total Changes: +19,136 Total Traders: 229

AS OF: 2021-10-05

[View Historical Data](#)

	Long			Short			Spread		
	Positions	Open Int	# Traders	Positions	Open Int	# Traders	Positions	Open Int	# Traders
Producer/Merchant/ Processor/User	94,441 -8,826	37.5%	37	141,971 +11,599	56.4%	34			
Swap Dealers	9,600 -430	3.8%	13	10,371 +1,244	4.1%	7	12,751 +1,334	5.1%	13
Managed Money	58,387 +12,131	23.2%	69	27,599 -8,682	11.0%	32	26,298 +7,107	10.4%	42
Other Reportables	20,830 +1,113	8.3%	28	7,621 +2,205	3.0%	26	17,186 +4,144	6.8%	27
Nonreportable Positions	12,283 +2,571	4.9%		7,979 +185	3.2%				

Producer/Merchnat というカテゴリーは実需家のことであり、弊社を含む世界中のカカオの実物をベースに取引期しているプレイヤーを指します。また、Managed Money (投機筋) がヘッジファンドやETF (上場投資信託) に組み込まれているロットをさします。

実需筋の産地売り (≒商社買い/先物売り) 取引が活発 (+11,599) と、投機筋の買い (先物買い+12,131) が活発な状況。投機筋の買いポジションがかなり増えてきているので、調整が一回起こってもおかしくはない状況が続いている。ロンドンココア先物に比べると、ニューヨークの方は短期での売買数量が大きく、1週~数週間の短い期間で、投機筋の買いあがりまたは、買いポジションの手じまいの為の売りが早く変わる傾向がある。実需は決して高い感じはせず、先物相場が高いので、南米産のカカオ豆のディファレンシャル (=相場からいくら足し引きして価格を決めるかの値) がかなり弱含んできている。エクアドルやベネズエラ産のカカオ

ではFOB価格で1トン当たり200米ドルマイナスなどの価格も見られ、先物価格とカカオの実需、実体経済がますます乖離し始めていると感じる。

<https://www.tradingster.com/cot/futures>

8. ファンド勢、ロンドン先物は純買い越しポジションが更に増加。過去19か月で最大(10/9)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋(Managed Money)は今週、純買い越しポジションを10,738ロット増やして、51,144ロットとなったことが、ICE欧州先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、10月5日)の取引が含まれている。

- 純売りポジションの総量は過去19か月で最も強気水準(買われ過ぎ状態)
- 買いポジションの総量は10月5日までで、前週より7,797ロット増加して54,482ロットとなった。
- 買いポジションの総量は、過去19か月で最も多い数量
- 売りポジションの総量は10月5日までで、前週より2,941ロット減少して、3,338ロットとなり、この数字は過去6か月で最も少ない数字

9. LDN市場の全プレイヤーのポジション一覧の分析(9/26)

Commitments of Traders		Futures only							
ICE Futures Europe									
05/10/2021									
MktDate	OI	Producer/Merchant/ Processor/User		Swap Dealers			Managed Money		
		Long	Short	Long	Short	Spreading	Long	Short	Spreading
05/10/2021	281986	147917	246588	37766	8197	3293	54226	3338	9275
Percent of Open Interest Represented by each Category of Trader									
05/10/2021	100%	52.5%	87.4%	13.4%	2.9%	1.2%	19.2%	1.2%	3.3%

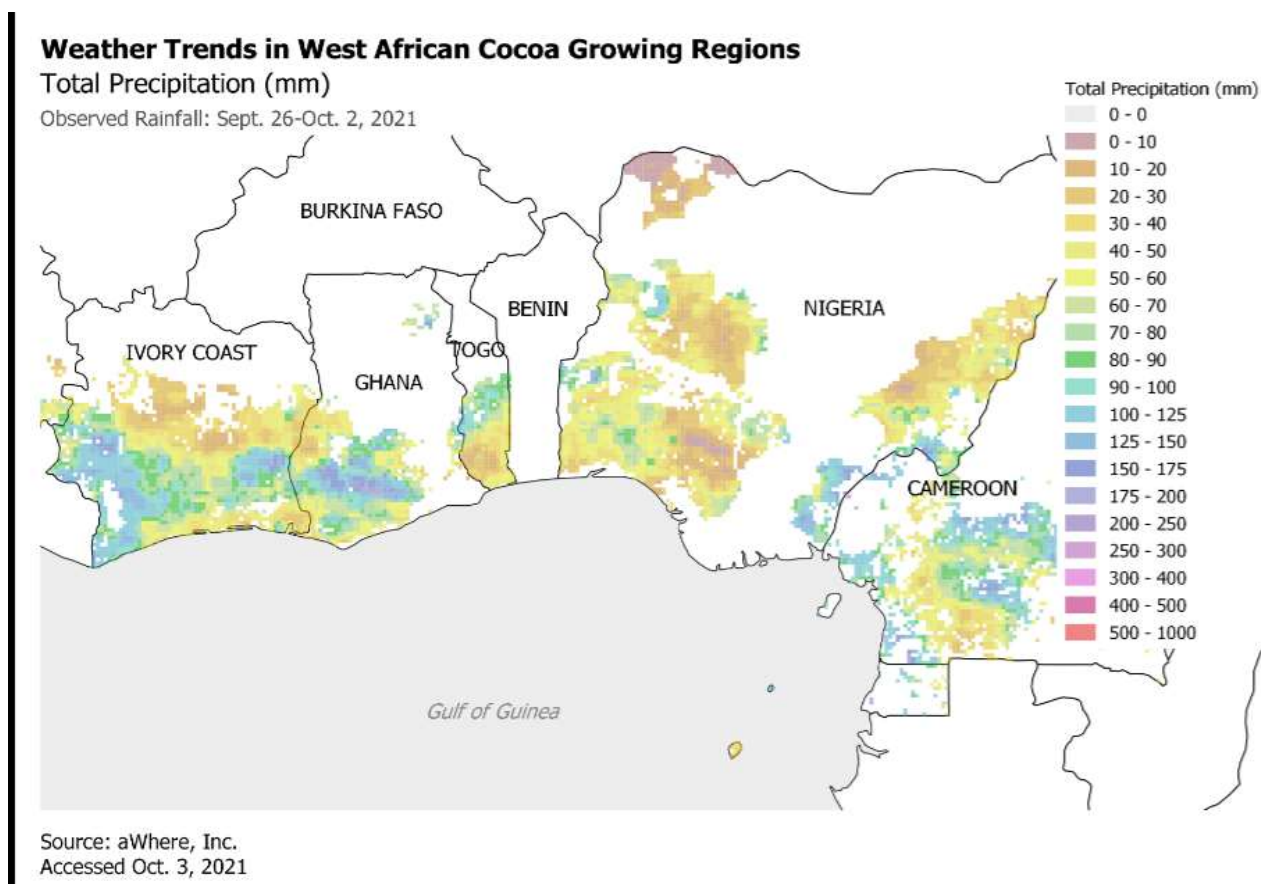
ロンドン市場は実需筋の取引割合が多いのが特徴的だが、あくまでこれはプレイヤーの категорияとしての報告であり、実需を扱うトレーダーが投機的な目的で売買している取引についても実需筋にカウントされている為、投機的な取引が少ないと断定しきることは出来ない側面がある。現在はロンドン市場は先に述べた通り投機筋のロングポジションが過去19か月で一番大きい数字となるなど実需以外の背景も重なりかなり強気な見立てでロンドンココアの先物を買っている状況となっており、実需筋としては原料価格の高騰が誘発されて頭の痛い状況が続いている。コートジ、ガーナの両国はこの相場を歓迎していると思うが、思い通りのプレミアムで実需筋が納得し、契約を進めていくかは疑問が残る。去年のコートジのプレミアム急落の事例もあるので急いで買い付ける必要性はないと世界中のトレーダーが感じているのではないかとと思われる。いずれにしても投機筋の買いすぎはいつかはある程度調整されてくるはずと思うが、それがどこまで買いポジションを膨らませた後なのか、見どころである。今週に入りやや軟調な雰囲気もある為、一旦近いタイミングで相場の下落はあるかもしれないと個人的には期待する。

10. アフリカ UPDATE: コートジは新物の集荷、配送は降雨からのスタート (10/4)

西アフリカのカカオの収穫は、大雨のために主要生産国であるコートジボワールの一部で豆の輸送が遅れたことから始まりました。

今月から始まった新シーズンでは、最大の生産国で歴史的な大豊作が期待されています。先週の大雨により、コートジボワールの一部の地域では農園から集荷センターへの豆の移動が妨げられましたが、隣国のガーナでは雨と太陽が混在しており、作物の生育には良い兆候であると農家は述べています。

コートジボワール中部の町 Vavoua の協同組合員 Moumouni Traore 氏は、「一部の道路は寸断され、橋は壊れている。早く道路が修復されることを願っています」と話す。



*10月2日までの1週間における西アフリカのカカオ生産地域の降水量。(資料: aWhere)

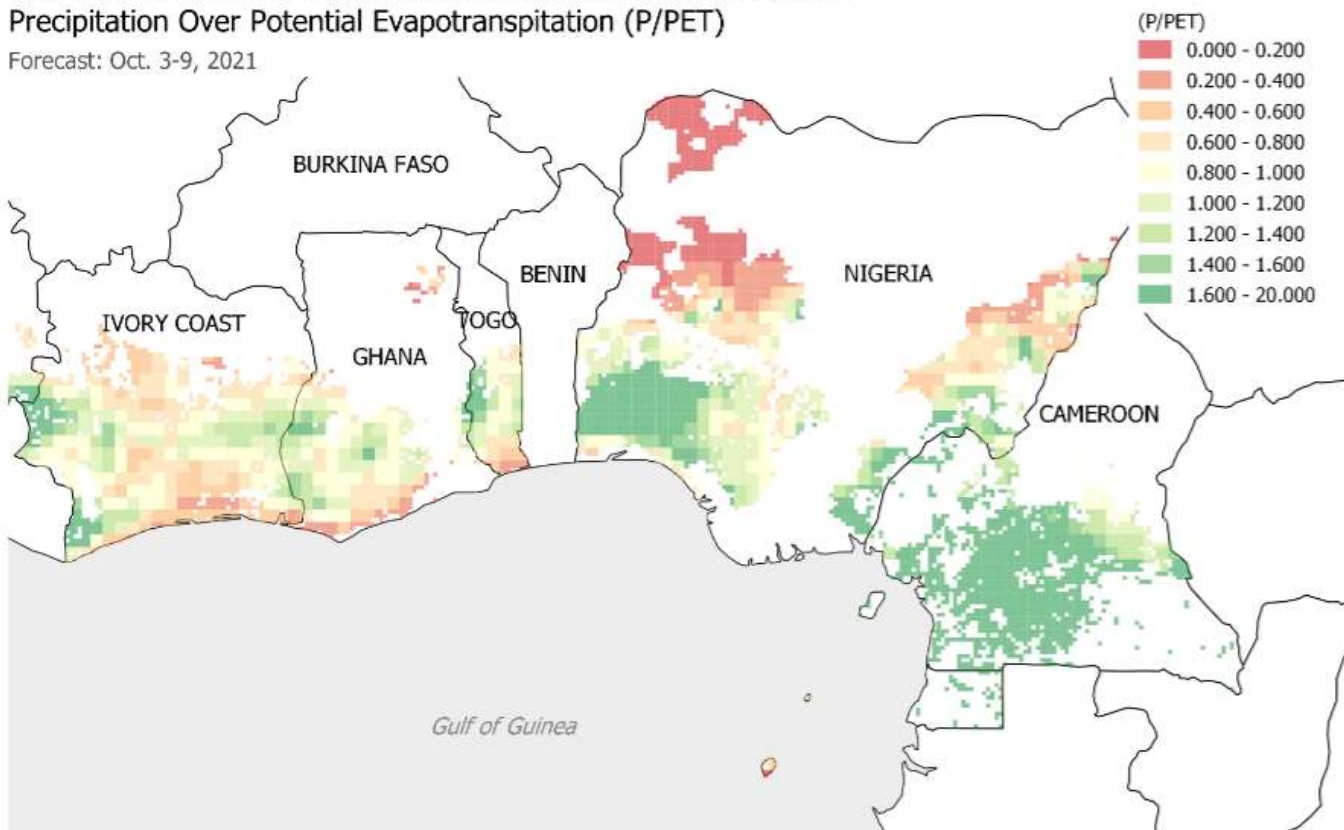
西アフリカの他の主要生産国のカメルーンの南西部地域では週を通して雨が続き、週末には封鎖が解除されて農家が収穫を再開する見込みである。ナイジェリア南部の生産者は、乾燥した天候の中、収穫を開始した。収穫は12月以降も続く可能性があるが、昨年よりも少量になるだろうと、イコム近郊の農家、アタンバ・ボンジョール氏は述べている。

一方、ロンドンでは、西アフリカからの供給とチョコレート需要の回復の兆しをトレーダーが判断し、ココア先物が1年ぶりの高値を付けました。

Weather Trends in West African Cocoa Growing Regions

Precipitation Over Potential Evapotranspiration (P/PET)

Forecast: Oct. 3-9, 2021



Source: aWhere, Inc.
Accessed Oct. 3, 2021

・*10月3日から始まる週のP/PET予報。P/PETとは、その地域の蒸発需要に対する降雨量の割合を示したものです。比率が1を下回ると、その期間に水分が不足することを示し、数値が低いほど作物へのストレスが大きいことを意味します。(aWhere)

11. EU、輸入商品に森林破壊防止証明書の発行を検討(10/7)

欧州連合(EU)は11月に、2021年1月1日以降、牛肉、大豆、コーヒー、ココア、木材、パーム油の輸入業者に対し、これら6品目が森林伐採や土地の劣化に寄与していない土地に由来することを証明することを義務付ける案を発表する見込みです。

この動きは、ブリュッセルが「輸入されている森林破壊」への対策と見なしているもので、ボルソナロ政権がアマゾンの熱帯雨林を保護するために効果的な対策を講じるよう、さらに圧力をかけることになってでしょう。そうしないと、特定の製品の欧州市場への参入にさらなる問題が生じ、農業分野に数億ドルの損害が発生する可能性があるからだ。

EUの行政機関である欧州委員会がまとめた提案は、加盟27カ国の首脳が集まる欧州理事会と欧州議会に送られます。その後、来年前半のフランスのEU議長国時代を中心に検討されることとなります。フランスは、アマゾンの森林破壊を理由に、EUとメルコスールの協定で環境規則の強化を最も強く求めている国です。

取材班が目にしたEUの文書では、森林破壊のない製品や原産国の法律に則った製品のみがEU市場への参入を許されることが明確にされています。

EUは、2020年12月31日をいわゆる「カットオフ・デート」と定義するようです。つまり、この日以降に森林破壊の対象となった土地で生産された商品は、EU市場への参入が認められなくなるのです。つまり、EUが森林破壊を罰するのは2021年以降であり、それ以前の森林破壊は実際には考慮されないということです。「去年や2019年にアマゾンで木を伐採した人は影響を受けない」と、あるEUのオブザーバーは言います。この問題は、EUで大きな議論を引き起こしました。NGOは、木を伐採した人に対して可能な限り大きな期間を設けることを提唱しており、一方、民間企業は、法律が施行される前に何かをした人を罰するのは公平ではないと常に主張してきました。いずれにしても、欧州の提案では、遡及権はわずかなものになるかもしれません。ブリ

ユッセルの国際貿易専門家であるエミリー・リース氏は、「大きな問題は、欧州市場に参入するための製品の認証と、生産チェーンの置き換えでしょう」と話す。したがって、ブラジル製品は、輸出業者が森林破壊された土地から来たものではないことを証明できなければ、輸出市場を失うリスクがあります。一方でリース氏は、「ココア、コーヒー、パーム油など、森林破壊に関してあまり対象にならない製品のブラジルのサプライチェーンにもプラスの効果があるかもしれない」と指摘しています。

また、アムステルダム大学の国際貿易法教授である Geraldo Vidigal 氏は、世界的に持続可能な生産を確保することは必要ですが、そのためには生産を積極的に強化することが望ましいとしています。「先進国の食品メーカーなどの需要者は、持続可能な生産のための低い障壁を育てることにあまり関心がなく、持続可能性を促進するという大きな目的を利用して、目的自体は正しいが、実は個社に有利な競争の障壁を作ることに関心があることがわかりました」と述べています。

ヨーロッパの文書によると、FAO のデータによると、1990 年から 2020 年の間に、欧州連合 27 カ国よりも広い面積の 4 億 2 千万ヘクタールの森林が世界的に失われています。

12. 新商品紹介：思考する時間をサポートする「シンキングサプリ・ホップインチョコ」(10/4)

麒麟ホールディングスと電通グループのジョイントベンチャーである INHOP 株式会社（本社：東京都中野区、社長：金子裕司）は、麒麟ホールディングスが開発した健康素材「熟成ホップ」を配合した商品『シンキングサプリ・ホップインチョコ』の販売を 10 月 1 日（金）より当社 EC サイトにて再開する。



『シンキングサプリ・ホップインチョコ』1,620 円（税込）／5 袋入り

INHOP が手がける「シンキングサプリ」は、熟成ホップを使った「思考する時間」をサポートする商品シリーズである。ホップは、ヨーロッパでは古くからハーブとして生活に取り入れられ、その苦味をもたらす健康への可能性が期待されている。麒麟ホールディングスが 10 年にわたり研究を重ね、様々な食品にこのホップの価値を展開できる素材として開発されたのが、熟成ホップだ。これまでグミやサプリメントなど発売してきたが、今回はこの熟成ホップをチョコレートに配合した。

健康機能面はもちろん、味にもこだわっている。今回の「シンキングサプリ・ホップインチョコ」の開発は、ミシュランガイド東京 2020、2021 掲載店「sio」の鳥羽シェフが監修した。カカオを 57%使用しており、カカオの苦味とホップの苦味の組み合わせを楽しむことができる。食べ続けたいくなる食感づけの工夫として、フィアンティーヌも配合し、サクサク食感が心地よい「クセになる美味しいビターテイスト」のチョコレートに仕上がっている。2021 年度、世界有数の味覚品質評価機関 ITI（国際味覚審査機構）が実施する、食品や飲料の味覚と品質を国際的に評価するコンテストにおいて、優秀味覚賞一ツ星も受賞しており、世界的な評価もされている。



形状にもこだわる。勉強や仕事をしている人の手を汚さず、集中を削ぐことがないように、チョコレートの表面を溶けにくくコーティング。また手軽につまめるように、1cm角の小さめサイズになっている。

仕事中や勉強中に、あるいは息抜きや気分転換に、思考する時間をサポートする「シンキングサプリ・ホップインチョコ」をぜひ試してみてくださいはいかがでしょうか？

*説明および写真は下記プレスリリースより

<https://www.sankei.com/smp/economy/news/211001/pr12110011840-s1.html>

* INHOP 株式会社 EC サイトは以下

<https://inhop.co.jp/products/1943/>

13. 焙煎前の生カカオ豆を使用 食感と苦みが癖になるタブレット新発売 (10/11)

株式会社マザーハウス（所在地：東京都台東区、代表：山口絵理子）から生まれた食のブランド、リトルマザーハウスは、インドネシア・スラウェシ島のクラッシュカカオエッグを使用したチョコレート、「インドネシアオリジンズ」3種類を発売した。発売を記念し、日暮里、銀座、福岡（天神）の3か所に期間限定ショップもオープンする。

カカオエッグとは、インドネシア・スラウェシ島の農家さんが、ひとつひとつ皮（ハスク）を剥いた焙煎前の生カカオ豆を、オリジナルのハイカカオチョコレートでコーティングしたものである。



『カカオエッグ』



スラウェシ島のカカオ農家さんたち

今回はそれをクラッシュし、クーベルチュールチョコレートに散りばめることで、食感とカカオ特有の苦みを楽しむことのできるタブレット商品に仕上げた。



『インドネシアオリジンズ』3種類 ¥ (税込)

カカオの苦みとミルクの甘みを楽しめる「ミルク」、カカオバターの香りとコクのある味わいの「ホワイト」、芳醇な香りと上質な苦みを感じる「ビター」の3種類がある。

*説明および写真は下記プレスリリースより

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000099.000016177.html>

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp

*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではございません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。